

実践園の
園庭を解説！

園庭の環境構成や工夫点の紹介と
観察ポイント・活動の発掘

芦屋市立伊勢幼稚園

園庭の自然や栽培植物との 関わりから“いのち”を感じよう

伊勢幼稚園では、子どもたちが園庭で季節の多種多様な野菜・果物を栽培・収穫し、食べる活動に力を入れています。

栽培活動をする中で子どもたちは、畑・果樹やそのまわりの草はらの植物をエサにしている、ダンゴムシやチョウ、バッタなどの小さな生きものたち(小虫)と遭遇し、小虫とのふれあいを通して自分と同じようにいのちがあることの発見から愛おしく思い始めます。同時に、子どもたちには退治するのではなく、生きものと共存しながら自分たちが食べるものも育てていくにはどうしたらいいか…という葛藤も生まれます。そこからみんなで一緒に考え、小虫の飼育活動などにも取組はひろがっていきます。さまざまな思いや体験が収穫や食べる活動の価値を上げ、「おいしい！だから小虫たちも好きなんだ」という気持ちにつながります。

栽培活動をきっかけに始まる野生生物とのさまざまな関わりが、子どもたちの心や体をゆさぶる体験を生み出しています。

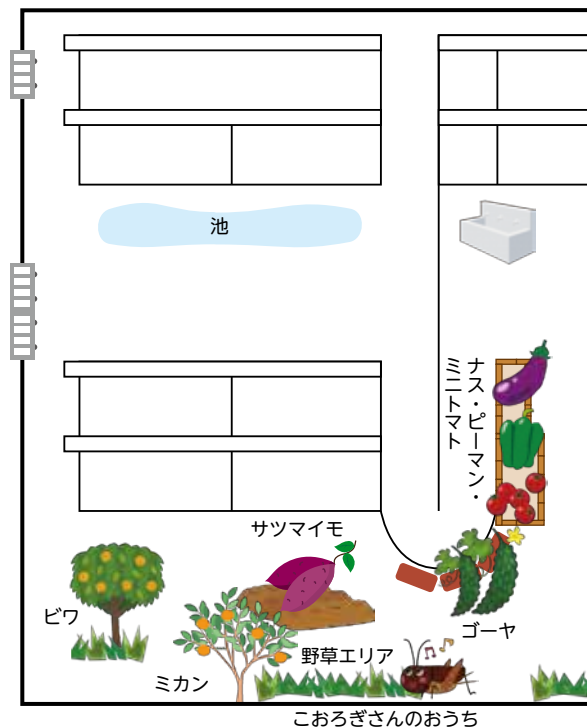
*** 園庭での取組や環境を生かしながらできる、いのちを感じる新たな観察ポイントや活動を夏のようにすから発掘してみました。**



園庭のようす
道路斜面のクロマツや隣の美術館の草地も大切な環境

園内マップ

※栽培植物は夏のものを記載



◇サツマイモ畑

活動や環境づくりの工夫点！

▽一人一苗で。収穫する時はツルもイモもつながっている状態(全体)を子どもたちが確認できるようにしている。畑は園内最大のバッタポイント。



収穫後、イモのツルをひろげているようす

バッタとサツマイモの葉の関係

サツマイモの葉はバッタにたくさん食べられています。子どもたちはサツマイモの葉がバッタのエサであることに気づいていると思いますが、虫食い痕がありながらも葉が生き続け、土の中のサツマイモをはぐくんでいることに着目してみましょう。バッタにもサツマイモにもいのちを与え続ける葉の力に驚くとともに、虫食い痕の形の面白さを見比べて楽しむこともできます。



オンブバッタ

ショウリョウバッタ

活動や環境づくりの工夫点！

▽園内では、塀際や畑の一角などで野草を抜かないでおくエリアをできるだけ取っている。イネ科の植物にはサツマイモ畑とはちがう種類のバッタのなかまがみられる。



ここが大切！

◇地植えのミニトマト・ピーマン・ナスとプランターのゴーヤ(グリーンカーテン)

ミニトマトの育ちを見上げよう

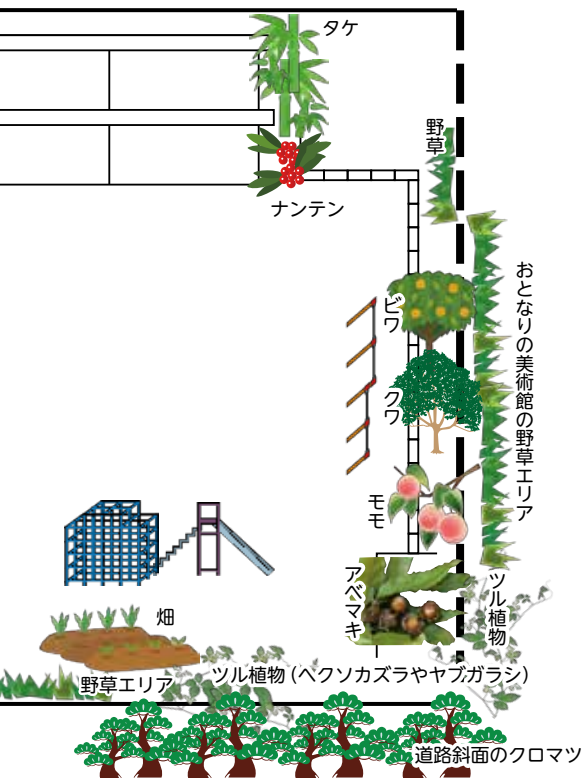
地面にしっかり根をおろしているミニトマトは、茎もとても大きく育っています。違う植物なので単純に比べられません。プランターに植えられているゴーヤと隣あわせにしている様子から、土の中の根のようす(有り様)を想像してみましょう。たくさんの実をみらせながら、枝を広げる地上の姿を支えるのはどんな根でしょうか。



たくさんの実をつけるミニトマト



ミニトマト(右)とゴーヤ(左)のようす



◇アベマキ

初夏のアベマキの木にはドングリの色んな姿がつまっている

初夏のアベマキの枝をよく見てみると、枝の先端に近い部分に今年の雌花の受粉後に育ち始めた小さなごぶのようなドングリ(写真左)を見つけることができます。さらにその先には、来年の葉や花がつまった冬芽ができてはじめているようすもみることができます。

それよりも元の部分を見てみましょう。まだ青いモシャモシャの殻斗(かくと)に包まれ大きくなり始めたドングリ(写真右)があります。これは前の年の花から育ったもので、秋には熟して地面に落ちます。アベマキやよく似ているクヌギのドングリは、一年半かけて育つのです。夏は、これらの木のいのちの色んな形に出会うことができる季節でもあります。



1年目のドングリ



2年目のドングリ

◇チョウとミカンとヤブガラシ

アゲハの幼虫の食草はミカンの葉。

では親のエサは？

アゲハチョウの幼虫は柑橘類の葉を食草(エサとなる特定の植物)としています。では、成体はどこでエサを食べているのか探してみましょう。園庭の塀際にヤブガラシが自然に生えています。アゲハチョウなど多くのチョウの成体はヤブガラシの花にもよく集まってきました。

園内の植物が生きもののさまざまな成長段階を支えています。



ヤブガラシの花の蜜を吸うアオスジアゲハ
※参考 アオスジアゲハの幼虫の食草はクスノキ

ヤブガラシとアゲハチョウの「くるくる」？

ヤブガラシの花にはアゲハチョウなどが吸蜜にやってきます。両者はともに「くるくる」したものを持っています。ヤブガラシはバネのような巻きひげをもち、他の植物やフェンスなどに絡みついて身体を支えています。一方、アゲハチョウのストロー状に伸びる口は普段はくるくる巻かれています。自然界には他にもたくさんの「くるくる」があります。それらには生きていくための知恵が詰まっているのです。



ツル植物とアゲハチョウの口物の「くるくる」

※チョウ・バタ類・ツル植物の写真は参考写真

園庭で「いのちを感じ取る」 ことから始めよう

－ 園庭での自然体験活動の視点を見直す －

「生きものがいる」から「そこにいのちがある」へ

子どもたちが毎日安心して過ごすことができる場である「園庭」。ここでは、子どもの最も身近な自然体験の場である園庭での活動の視点を少し見直してみましょう。

園庭には、樹木や生け垣、飼育・栽培スペースなどが配されており、そこで子どもたちは生きものとのふれあいを通して好奇心を持ち、感性をはぐくむ活動を積み重ねています。広さや量の大小があるとしても、容易にさまざまな生きものを発見することができる場です。この当たり前だと思っている「生きものがいる」ということからもう一步踏み込んで、生きものの姿に「そこにいのちがある」ことを感じ取ることが、自然への理解を深める上でとても大切です。

さまざまな視点からのアプローチを重ねる

例えば、一枚の葉を太陽の光に透かして見ると葉脈の様子が見えます。同様に花びらの筋も見ることができます。この「きれいだね」「おもしろいね」という発見から、自分たちの手のひらに巡らされた血管と同じであるといざなうことで、自分が生きているように植物も生きている、つまり「いのちがある」ことを実感する第一歩となります。その葉をバッタやチョウの幼虫などが食べることでいのちがつながる、自分も多くのいのちをいただくことで生きている＝「みんなつながっている」という思いへと深まっていきます。



出会った生きものたちに、近づいてみる・よく見る・愛でる・つながりや関係に気づくーなど様々な視点からのアプローチを重ねていくことで、そのいのちを感じ取り、自分もそのつながりの中の一部であるという一体感を得ることができるのです。

時間・場所・活動の拡がりや深まりを

このように、身近な自然あふれる園庭でいのちと向き合う経験を重ねることで、季節(時間)や場所が変わっても同じ生きものの生育や変化をとらえる見方が子どもたちにも少しずつ備わってくることが期待できます。

秋の自然体験活動として人気のドングリ拾いやドングリ工作から考えてみましょう。季節性を生かしたこの楽しい活動を核にしなが、1年を通じて「いのちとしてのドングリ」に寄り添い、園庭や地域の自然などにも拡がる多様な活動へと展開することもできます。

ドングリのなる木も他の樹木同様に新芽が出て、花が咲き、ドングリ(果実)ができますが、花や果実が育っていく様子はあまり関心を持たれません。種類によって半年から1年半かけて育つ過程や地面に落下してすぐに根を深く張ろうとするコナラなどの力強い生き方、また、えさとして森で暮らす生きものを支えていることにも注目した体験活動や表現活動、言語活動、交流などを構成することで、遊びや工作の材料としての親しみだけでなく、一粒一粒が森の豊かさを生み出す重要な存在であるという思いが子どもの心に染みこんでいき、自然への深い理解への第一歩になります。



【参考文献】

菅井啓之ほか著「美しい心を育む自然観察『観察ってどうすればいいの?』」 文溪堂 2014

実践園の
園庭を解説!

園庭の環境構成や工夫点の紹介と
観察ポイント・活動の発掘

神戸市立あづま幼稚園

地域の生きものが棲む「なかよし池」で 自然体験を積み重ねよう・深めよう

あづま幼稚園には、ザリガニ池だったコンクリート製の鑑賞池を、神戸の在来生物が生息する場所として改修した「なかよし池」があります。この池の植物や魚、昆虫などが季節を通じてみせるさまざまな姿に子どもたちは出会っています。先生は、池を中心に園庭の自然のようすを解説する環境学習協力者などと一緒にテーマを相談して季節のポイント(気づき)となるプログラムを行い、年齢に応じた「積み重ねる」「深める」日々の活動に導き、「いのちのつながり」の実感へとつないでいます。



なかよし池をのぞいてみよう



ミニ田んぼ



なかよし池

【なかよし池の生きもの】

- ◇植物：フトイ、ヒメガマ、セリ、ジュズダマ、ショウブ、セキショウ、アサザなど。イネ(ミニ田んぼ)
- ◇水の中やその周辺の生きもの：メダカ、ヤゴ(イトトンボのなかま、シオカラトンボのなかま、アカトンボのなかまなど)、貝類、カエルのなかま、イシガメ

2年間を見通した

5歳児 気づきの拡がりから深まりへ

- ◆「メダカはおひさまのあたるところにいるよ」
- ♥「アサザの葉がくるくる開くよ」
- ★「ヒメガマのウインナーはタネだったんだね」
- ◆「去年、ジュズダマをもらったけど、もうできているかな」
- ◆「今日は寒いから氷ができてるかな」



アサザ



アマガエル



ヒメガマ

4歳児 気づきの積み重ね

《驚く・興味を持つ体験の積み重ねから、なかよし池が好きな場所になっていく》

- ◆「メダカがいるね」
- ♥「アサザのお花が咲いているね」
- ★「ヒメガマがウインナーみたいになっているよ」
- ◆「ジュズダマをもらったよ」
- ◆「池に氷がはっているよ」

気づく



協力しながらつくる

拡げる

* 観察活動・表現活動：アサザの葉のくるくるをつくってみよう

アサザの葉が開きつつあるようすを、紙でつくった模型と実物をみせながら紹介する。同時に葉の開き方は色々あることも伝える。また、アサザの葉にギンヤンマやイトトンボが産卵のためにやってくることも写真で紹介する。

引き続き教室で、葉の形に切った色紙に鉛筆やペンに巻き付け、今見てきた葉のくるくるした様子をつくる。

トンボがやってきたよ・育っているよ

毎年、複数の種類のヤゴが育っています。トンボは移動範囲が広いので、いつでも見られたり捕まえられたりしませんが、池の中のヤゴやぬけがらなどさまざまな姿に出会うことで、「トンボのいのちがここで生まれ、育っている、そして旅立っている」ことを実感しています。



いろいろなヤゴが育っているよ

活動や環境づくりの工夫点!

▽なかよし池の生きもののはこだわりは「神戸にすむ在来の生きもの」。もともとの採取地がわかっている市内の施設のビオトープや学校のビオトープから分けてもらいました。



アサザの葉が開いてくる

アサザの葉が開いてくるよ

池の水面にはアサザの葉がひろがります。その芽がくるくと小さく収まった状態から徐々にほどけていく途中の姿をよく見ることで、生きもののは知恵や形のおもしろさに好奇心が刺激されます。

活動や環境づくりの工夫点!

▽ザリガニは外来種であることを先生たちで共有し、神戸の在来生物が棲むなかよし池とは別にし、逃げ出さないように網付きの蓋で管理しています。

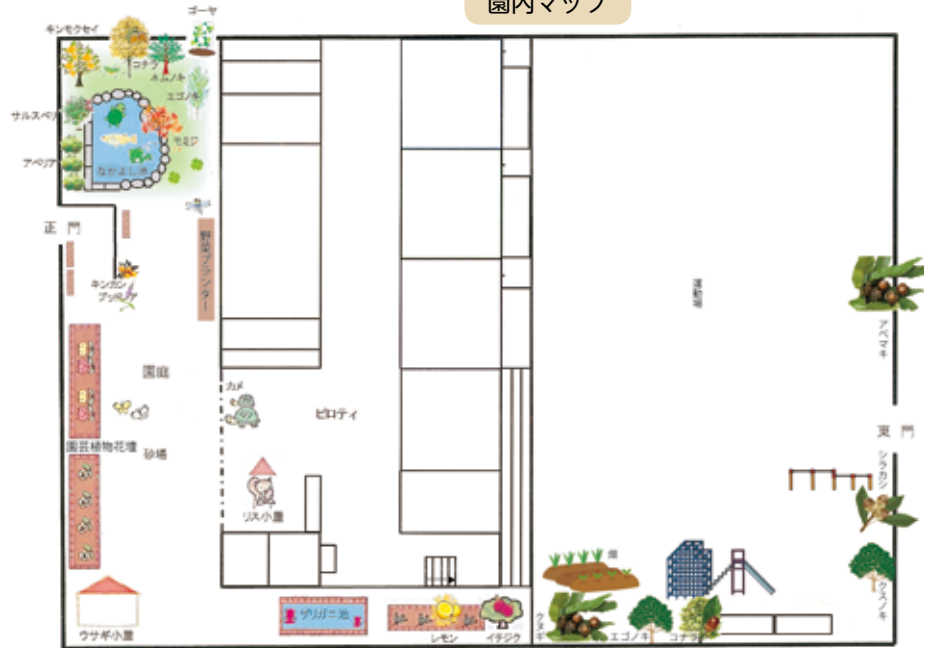
冬でも木は生きているよ

冬のドングリの木の冬芽(ふゆめ)を虫めがねで観察し、形のおもしろさを発見しながら、冬芽という形で芽吹きを待ちながら冬を過ごす姿への共感も生まれます。



「タケノコ」みたいなクヌギの冬芽

園内マップ



「気づき」「拡がり」「深まり」

《これまでの経験(興味)から、生きものの変化を予想する・確かめる》

- 「メダカにも元気がある季節とない季節があるよ」
- 「アサザの葉がおおきくなっているよ」
- ★「ヒメガマのタネは綿になって旅立っていくよ」
- ◆「まだ青いね・色が変わるんだ・ブレスレットをつくろう」
- 「自分たちで氷をつくってみよう・どこにおこうか」

深める



まだ青いジュズダマの実



ブレスレットつくってみよう

なかよし池での発見を足していこう



*観察活動：タネが旅立っていくよ

秋以降、関心が集まる茶色くなったヒメガマの花穂が先から綿毛となっている様子を観察し、「タネの集まりだった」ということを発見する。タンポポのタネと同じように、風に乗って旅立っていく様子を見送る。また、ジュズダマの実が水に浮かぶことを見て水の上を移動し、たどり着いた先で芽を出すことも知る。

→植物が子孫を広げるためのさまざまな作戦を知る。



タネがはじけてとんでいくよ

園庭の環境づくりの作法

野生の生きものでにぎわう 水辺づくりに挑戦してみよう

無理なく・ひと工夫で

子どもたちが季節やいのちを感じ取る自然体験を深めるためには、生きものと子どもの出会いや深まりを意識した園庭の環境づくりの視点を持っておきたいものです。野菜などの栽培や植栽、野草の管理も、「収穫や景観」を第一の目的にするのではなく「子どもがいのちを感じ取り・自然への理解を深める」という観点を大切にしながら取り組みましょう。

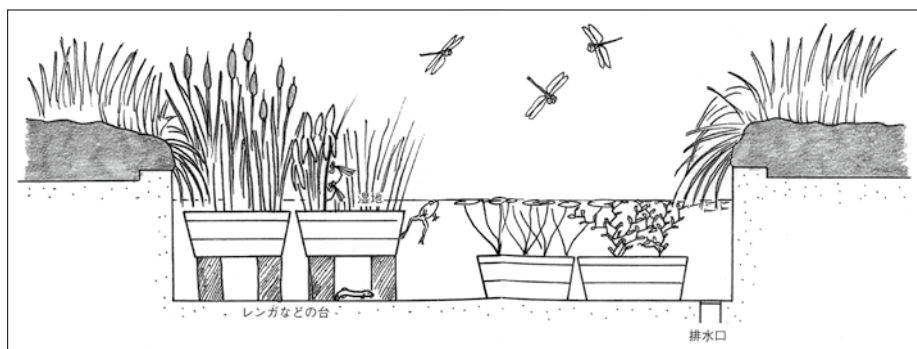
ここでは、「地域の多様な生きものがつながりあいながら棲息する水辺」づくりの方法やポイントを紹介します。さまざまな条件から地面を掘ってシートなどで遮水をするような池づくりが難しい場合でも、既存のコンクリート池や樹脂製のプール状の容器にひと工夫することで、生きものが訪れやすい水辺をつくることができます。

地域の多様な生きものが棲息する場所

園庭は、地域の自然とつながっています。棲息するさまざまな生きものも、自分たちの生活に適した場所には移動してきたり繁殖したりするものです。自分たちの力でやってくる地域の生きものを呼び込み、それらが自然界でしているように食べたり食べられたりして、つながり合いながら生きる姿に出会うことができる水辺をつくってみましょう。それは、「地域の自然をお手本にする」ということでもあります。まず先生たちでモデルにする水辺に行き、そこにいる動植物の様子を知る体験をおすすめします。水槽の中で金魚などのペットを飼育するという体験も大切なことですから、自然と自然でないもの（飼育動物や栽培植物）の区別をしっかりとしておくことも大切です。

既存の池を改造してみよう

既存のコンクリート製の鑑賞池やジャブジャブ池も、ちょっとした工夫で多様な動植物が棲息する空間になります。生きものがたくさんいる水辺では乾燥した土手から湿った所、浅い水辺～深い水辺といった環境があります。土を池にそのまま入れてもよいですが、維持・管理のしやすさを考えると、植木鉢やプランター、高さを調節するためのブロックやレンガなどの組み合わせで水辺環境をつくると取り組みやすくなります。（図 参照）



【出典】

財団法人 日本生態系協会編著 「学校ビオトープ 考え方 つくり方 使い方」
講談社 2000



〈神戸市立玉津第二幼稚園の池改造例〉

長年色々な生きものが入られていたコンクリート池を子どもたちと大掃除して一度空にしてから(写真左・中)神戸市内の水辺の植物(在来種)を市内の幼稚園・学校ビオトープから移植。ショウブ・セキショウ・セリなど、葉の香りが良く季節感のあるものや、ギンヤンマやイトトンボの産卵場所となる植物(アサザやガマ)、トンボの羽化を助ける抽水植物(ガマやフトイ)がある。少量の移植から始めて育てている。(写真右は約1年後のようす)

小さな池を並べてつくってみよう

コンクリートを練る樹脂製の入れ物(タフブネやトロ舟)を地面に並べて湿地や浅い水辺などの環境を組み合わせても、多様な環境をつくることができます。地面にそのまま並べるだけでも周囲に土を盛ってもよいでしょう。根の張りが強い植物は植木鉢に植えて管理することをすすめます。



〈神戸市立いかわ幼稚園の池づくり例〉

草地だった場所(写真左)に樹脂製の舟を7つ組み合わせ、周りに土を盛ってわくわくいけ(写真中)をつくった。どんな水辺にするかを先生・アドバイザーで検討する研修を経て、子どもの園外活動も行っている近くの伊川の自然を「園庭にお裾分けしてもらおう」ことをテーマに、伊川での採取活動、池づくり(園児も参加)を実施した。伊川から採取した湿性植物(イグサ、ウキヤガラ、タデ、カヤツリグサ、セリ、ジュズダマなど)や伊川の活動協力者から提供された地域に自生する沈水植物(シャジクモなど)、浮葉植物(アサザなど)、地域の水路で採取した抽水植物(ガマのなかま)などを移入している。

わくわく池の生きもの

チョウの
サナギ



吸水にやってきたアゲハチョウ



藻(も)の中に小さな生きものがかくれているよ



イトトンボの
なかまのヤゴ



アオモンイトトンボ

【参考文献】

小泉昭男 著「自然と遊ぼう 園庭大改造 命の営みを感じられる園庭に」 ひとなる書房 2011

やってよかった！
楽しかった！
実際に取り組んだ
先生方が語ります！

環境学習 あれこれ 座談会

「環境学習ってなに？どうすればいいの？」はじめはみんな、そんな不安を抱えています。でも案外、環境学習って難しいことじゃないんです！日々の生活の中に、ちょっとした工夫を加える。それだけで立派な環境学習になります。

環境学習に取り組んだ先生方にお集まりいただき、環境学習の楽しさを語っていただきました。



兵庫教育大学
学校教育研究科准教授
鈴木 正敏 先生



養父市立伊佐こども園
奥藤 正子 先生



社会福祉法人青垣福祉会
認定こども園あおがき
足立 麻美 先生



神戸市立有野幼稚園
岡田 直子 先生

環境学習との出会い

(鈴木) みなさん、こんにちは。まずはじめに、環境学習を始めてみようというきっかけは何だったんですか？

(奥藤) 私は、平成27年4月に異動してきた際、園長から年間を通して環境学習に取り組む事業を受けていることを聞かされ、「えー！なにそれ!？」ってところから始まったんです。認定こども園としてスタートしたばかりで、何もかもこれからという時でしたし、自分もどうしたらいいのかわからない状態

でした。そこからのスタートでしたね。

その後、園長や他の先生方と何度も話し合いを持ちました。そして、園のある伊佐にはコウノトリがいますので、それを特色とした環境学習をやっていこうと、年間計画を立てて進めていくことになりました。でも、その時は、すぐそこにコウノトリはいるんですけど、



日常生活の中に溶け込んでいるというところまではいってない状況でした。だから、コウノトリと子どもたちをどう結びつけていったらいいんだろうってところがすごく難しかったですね。そこで「なぜ伊佐にはコウノトリがいるんだろうか、棲めるんだろうか」っていうところからはじめて、「伊佐にはやっぱり田んぼとか、山や川があって、そこにはコウノトリさんが好きなエサの虫とか生きものがたくさんいるからだね」っていうところへまず進めていきましたね。保育教諭もコウノトリについて全然知らなかったので、子どもたちと一緒に学んでいったって感じです。

(鈴木) 足立先生はいかがでしたか？

(足立) 私は当時5歳児の担任でした。主任補佐から「今年は環境学習を頑張ろう！」と言われて「環境学習って何？」という感じで、他の先生方と相談しながら、手探りで進めました(笑)。

青垣はあふれるほど自然豊かなところなのですが、田舎にいながらも自然の中での経験ってあんまりできないんです。なぜって、熊や猿が出たり、都会みたいに子どもが集えるような公園がなくて、あまり外で遊ばないんです。保護者の就労の関係もあり、家とこども園の往復になってしまって、帰ったら近所で遊ばずに家の中で遊ぶことが多くなります。それで、地域の豊かな自然をもっともって提供していくことが大切だと思いました。近くに青垣の自然を展示している「青垣いきものふれあいの里」(61ページ参照)っていう施設があって、そこからゲストティーチャーとして来ていただきました。そうしたら、子どもたち

は、川の魚とか、植物とか、木の年輪とか、もう夢中になって見るんです。その後、施設や森にも遊びに行きました。それはもう大喜びで、「あ！



これこの間見せてもらったやつや！」とか、興味をもって自然にふれあうようになりました。地域のいろんな場所や豊かな自然環境に目を向けることで、みんなが青垣をもう一回見つめ直す良い機会になり、子どもたちも教師も「青垣っていいところやね、大切にしていかないとね」と思うようになりました。

(岡田) 有野幼稚園は、26年度からESD(持続可能な開発のための教育)に取り組んでいまして、人も自然も、全部いのちがつながっているを感じています。この研究を通して地域の良さを感じ、子どもたちも有野地区を大切に思えるような保育を意識してきました。そこでエコっこの募集を知って、「やってみる？」って園から積極的に応募しました。でも実際受けることが決まると「えー！？」って感じでした(笑)。園では27年度、事業を受けるからといって特にこれに取り組もうって大きく変わったことはなかったですね。これまで取り組んできたことをふるさとの環境体験っていう視点でひとつひとつ見直していくと、特に新しいことをしなくても、教師の視点を変えるだけで子どもたちに伝えられることは違ってくるなということに気づいたんです。

例えば、有野幼稚園では2カ月に1回、近くの駅にクリーン作戦に行くんですけど、もう伝統というか、「誘ってもらっているから行く」って感じだったんですよね。でも、1回1回の活動のねらいとか、「なんでこの活動をするのか」っていうことを職員間であらためて確認することで、気づいたことがたくさんあったんです。というのも、私たち教師は、クリーン作戦に「行く」ことで頭がいっぱいだったんですけど、子どもたちは、園から出発して歩いて駅に向かうその道中にもゴミがあることに気がついて拾ってたんですね。そんなことにもハッと気づいて、「じゃあ、帰り道は違う道を通って帰ってみよう」とか、さらに深まった活動ができるようになりましたね。そしたらどんどん「こうしたら子どもはどんな反応するのかな」とか、「次はなにしようかな」って、先生たち同士で考えるのも楽しくなってきました。

(鈴木) 環境学習のいいところは、「ねらいが分かる」「つながりができる」「子どもも教師も発見できる」というところなんでしょうね。

考えることに意義があるから、別に行事の中にも何か組まなくてもいいんだけど、先生方がほんのちょっと心の中に環境の視点を入れることで全然ちがってくるんですね。

環境学習を意識した保育に取り組んで、変わってきたこと

(鈴木) 環境学習をやっていく中で、先生方が感じたり、子どもたちが変わってきたなあと思ったことは何かありますか？

(奥藤) やはり、より深い環境学習にしていくには、**保育教諭がうまくサポートしないとけないと思いました**。「コウノトリがなぜここに棲んでいるんだろう」と子どもたちと一緒に考えていくうちに、地域の方が「コウノトリ育む農法」で農業をされている意味がだんだん分かってくるんです。「コウノトリ育む農法ってうちのおじいちゃんもやってるー！」っていう子どもがいたんですね。それで他の子どもたちも興味を持って、話し合ってる姿をみて、「これや！」って思い、いろんな情報を提供しました。せっかく子どもたちがここまできてるのに、これを逃してしまうともったいないですよ。

だから、**私はそれ以降子どもたちのつぶやきとかを逃さないように必死になりましたね(笑)**。そうやって子どもたちが自分で気づいて、保育教諭のサポートでより深まって、コウノトリが棲みやすい場所ってことは、自分たちにとっても良い環境なんやなって、自分たちの生活とつながっていったというところにたどり着いたんです。

(鈴木) そうですね。色々やっていると、その所逃さなくなりますよね。いいことだなあ。

岡田先生はどうですか？

(岡田) そうですね、実は環境学習を進めていく中で困ることが何回かあったんです。たとえば、近



所の方が「どうぞこれ育てて〜」って稲の苗を持ってきてくださったんですけどね。確かにそのときはありがたいなあと思ったんですけど、その後「どう育てたら

いいんやろう」って思って。みんなで調べてバケツとコンテナで育てることにしたんです。でも「ほんとに育つかないかな」って、やってみたものの正直心配だったんです。でも、苗をくれた近所の方がやってきて、「お米どう？」って見にこられ、それ以降定期的に来てくださるようになったんです。こんな風に、いつも「どうしよう」って思ったときにはそれにすぐ気づいて助けてくれる地域の方や保護者の方がいて、困ったときに子どもたちのために手を貸してくれるんだなって。**園だけで悩まなくても地域の力を借りたらいいんだなって、実感しました。**

(鈴木) それってねえ、とても大事なことだなあ。困ったってことが言えるってことは、やっぱり助け合わなきゃ生きていけないって感じるようになるもんね。**一人で生きてるんじゃないってことを感じるところが環境教育の一番大切なところ**だと思うな。

(奥藤) うちの園も地域の方が助けてくださいます。私たちが困っていると、子どもたちが「**〇〇名人のおじちゃん、呼んだらいいやんー!**」って教えてくれるんです。地域の方も、今までは「ほんまに行っていいのかな」とか、思ってらっしゃったみたいなので、園から「**〇〇で困ってるんですけどどうしたらいいですかー?**」って地域に相談していくことが大事だなってことがすごく分かりました。

(鈴木) 困ったときに**地域の方に助けてもらう、力を借りたら良い**ってというのは先生方に共通してますね。環境学習をしてると自然とそうなるんだらうね。子どもたちも**地域の中で生きていることに気づくことで、ふるさとを大切に**する思いが生まれ

てくるし、人と地域とのつながりとか、人と人とのつながりの大切さがわかってきますよね。

環境学習にチャレンジするあなたへ

(鈴木) これから環境学習にチャレンジされる先生へ、こんな風にするといいよ、とか、こんな苦労はあるけどこうやったら乗り越えられるよっていう、そんなアドバイスはありますか？

(奥藤) ふりかえてみると、やっぱり、**普段やっていることを意識して見るか、見ないか、だ**と思いますね。普段取り組んでいることを、「なんでこの活動をするのか」というように意識したり、たとえば、コウノトリを中心とする環境学習から、地域の「コウノトリ育む農法」とか、自分たちの食べ物の話とか、**いろんな方面につなげていくことでどんどん内容が深まる**んじゃないかなって。あとは、保育教諭側の子どもたちへの投げかけ方を変えると、子どもたちの受け止め方も変わってくるので、**同じ活動を継続することにも意義がある**のかなって思います。例えば、コウノトリの郷公園にみんなで遠足に行くんですけど、4歳のときにはじめて行ったときは、「コウノトリさんすごい！」って感じていたんですけど、5歳児になってまた行くと、今度はそれだけじゃなくて、郷公園で働いている人の仕事とか、「なんでこの仕事をしてるのかな」ってことまで考え始めているんです。それで、子どもたちで話し合っ、「コウノトリさんと、その周りの自然を守るために仕事してるんだなあ」って気づいてるんですね。やっぱり同じ経験をしても、子どもが4歳で感じる



ことと、5歳になって経験して気づくことってというのはやっぱり違うんだなあって思いましたね。

(鈴木) わざわざ奇をてらった新しいことをやらなくても、子

どもたちは興味を持って取り組むし、大丈夫ってことですね。

(足立) 改めて今日、やっぱり「心」がないとだめだになって感じました。つい忙しさを理由に流してしまいがちなんですけど、「保育する側の思い」とか願っただけじゃなくて、「子どもたちの思い」とか、「地域の方の願い」とか、そういうのを大切にしていきたいなって思いますね。

(岡田) 環境学習を始めた頃、近くに大きな田んぼがあればいいのになあと、思ったこともありましたが、今は身近な環境の中で十分できるんだなって感じています。花壇の一角だけでも、そこで何を育てるのかとか、土に何を混ぜるのかとか、それだけでも立派な環境学習になりますよね。**ないものねだりはずせず、今の園の環境を活かすことが大切だ**と思いました。

(鈴木) そうですね。すみっこでも、コンポストはできるもんね。ダンゴムシもミミズもいるしね。

街か田舎かって、やっぱりあるけど、街だからできないってことはないですよ。子どもたちの周りの環境の中で、子どもたちに何を伝えるかってことがいちばん大切。**ちょっとしたことを使って、子どもが自然を感じたり、ぬくもりやつながりを感じたり**、そういう環境学習ができたらいいなって思いますね。

先生方からのメッセージをまとめると、**普段の活動でも、先生自身が意識して環境の視点を取り入れたり、活動の意味、それから子どもたちに何を伝えたいかを考えること**によって、環境学習になるんだってということ。環境学習ってそんなに難しいことじゃないんだよね。

あとは何より先生方が**楽しく活動すること**。「ふるさとっていいな」、「自然って素敵だな」と感じながら日々生活している先生の後ろ姿を見て、子どもたちは育っていくのではないのでしょうか。

兵庫県の環境学習施設

兵庫県内で環境学習ができる施設とプログラムをご案内します。

子どもたちと一緒に施設へ出かけ、園内ではできない体験をしてみませんか？

※団体で訪問し、プログラムを実施する場合は事前予約が必要です。また、ご利用の際は、P62に記載のある「エコツーリズムバス」をぜひご利用ください！

西播磨

兵庫県の環境学習中核施設

ひょうご環境体験館

「見て」「触れて」「作って」楽しく環境学習！

【エコ工作】

所要時間：30～40分

施設内の「地球工房」で、自然素材や廃材、端材を活用した楽しい工作ができます。

(例)森のクマさんペンダントづくり、葉脈のしおりづくり、里山の草木染めなど



所在地：佐用郡佐用町光都1丁目330-3

電話番号：0791-58-2065

入館料：無料

アクセス：JR相生駅から神姫バス「SPRING-8北管理棟」下車徒歩8分
播磨自動車道「播磨新宮IC」から車で5分
山陽自動車道「龍野西IC」から車で20分

神戸

神戸市水の科学博物館

水について、楽しく遊びながら学習できます。

【水の実験】所要時間：20分

ドライアイスや、空き缶などを使った不思議な水の実験を目の前で見るができます。幼児向けにアレンジしますので、事前にご相談ください。このほか、「水のサーカス」、「浮かぶシャボン玉」など、楽しい展示もたくさんご用意しています！



所在地：神戸市兵庫区楠谷町37-1

電話番号：078-351-4488

入館料：小学生未満は無料

アクセス：JR三宮駅又は神戸駅 阪急・阪神三宮駅から市バス7系統「楠谷町」下車北へすぐ

阪神南

尼崎の森中央緑地

多様な生物が暮らすにぎやかな森を育てています。

【森づくり活動】所要時間：1プログラム30分程度

種まきや植替え、植樹など、季節に応じた森づくりの活動を体験できます。間伐材を使って人形、バジなどを作るクラフトや森の生き物観察(森の探検隊)なども行っています。ウェブマガジン「尼崎21世紀の森」(<http://ama21mag.jp/>)もぜひご覧ください！

1度に30人程度！



所在地：尼崎市扇町33-4

電話番号：06-6412-1900

入場料：無料

アクセス：阪神電鉄出屋敷駅から阪神バス「尼崎スポーツの森」下車徒歩5分

阪神北

キッピー山のラボ

(三田市有馬富士自然学習センター)

有馬富士公園の四季の自然も楽しめる体験型自然学習施設です！

【どんぐりあそび】など 所要時間：応相談

秋には様々な種類のどんぐりを使った「どんぐりすくい」などの体験ができます。ほかにも、人数や季節に合わせて、五感を使って感じる様々なプログラムをご用意します。ぜひご相談ください！



ジャンボクワガタつよじくん

所在地：三田市福島1091-2

電話番号：079-569-7727

入館料：無料

アクセス：JR新三田駅から神姫バス「有馬富士公園前」下車徒歩5分

東播磨

いなみ野水辺の里公園

生きた自然をぜひ体感してください！

【自然観察会】所要時間：2時間

スタッフが一緒に歩きながら、公園内に棲む生き物や植物などを解説してくれます。ガイド料は2時間3,000円。内容や時間については、相談可能です。東播磨地域のため池や水路、河川に住む魚などを展示する「魚のうち」もありますよ。



所在地：加古郡稲美町岡1840番地の1
電話番号：079-497-9010
入園料：無料
アクセス：JR土山駅から神姫バス母里行で「十七丁」下車徒歩5分

北播磨

県立やしろの森公園

身近な自然に親しみ、楽しみながら森の大切さを感じます。

【森のおさんぽ】所要時間：応相談

いろいろな動植物が生息する豊かな里山林と水辺環境がある公園内を案内人と一緒に探検し、さまざまな「いのち」と出会えます。
※運営協力金(30名未満：2,000円 30名以上：3,000円)できればご協力をお願いします。



所在地：加東市上久米1081-3
電話番号：0795-44-1510
入園料：無料
アクセス：中国自動車道「ひょうご東条IC」から車で10分、または「滝野・社IC」から車で15分

中播磨

エコパークあぼし

楽しみながらゴミ処理の仕組みと環境の大切さを学びます！

p 32安室東幼稚園も見てね！

【「めぐりルート」見学】所要時間：60分

分別ゲームや〇×クイズなど、4つのミッションゲームに挑戦しながら、ゴミ処理やリサイクルについて学びます。

※団体見学が入っている場合、一般見学のご案内ができない場合がございます。



所在地：姫路市網干区網干浜4-1
電話番号：079-272-9166
入館料：無料
アクセス：山陽電鉄網干線「山陽網干駅」下車無料シャトルバスで10分

但馬

但馬高原植物園

約2,000種類の樹木や草花に出会えます。

【癒やしの森探検】

所要時間：60分

季節によって多様な変化を見せる豊かな森を案内人と一緒に散策します。たくさんの新しい発見ができますよ。

※開園期間は4月中旬～11月です。



所在地：美方郡香美町村岡区和池709
電話番号：0796-96-1187
入園料：小学生未満は無料
アクセス：北近畿豊岡自動車道「八鹿氷ノ山IC」から車で40分

丹波

青垣いきものふれあいの里

すぐ近くにいる生きものに目を向けてみませんか？

【自然観察会】所要時間：30分～60分

施設内でのフィールド散策や、川での水生生物調べなどを通じて身近な植物や生き物を観察できます。内容や時間はご要望に合わせて実施します。また季節ごとに自然に関する企画展も開催します。



所在地：丹波市青垣町山垣2115-6
電話番号：0795-88-0888
入園料：無料
アクセス：北近畿豊岡自動車道「青垣IC」から車で10分

淡路

淡路島国営明石海峡公園

四季折々の草花が楽しめる花の公園です。

【花の植え付け体験】※季節による 所要時間：60分

季節のお花の植え付け体験ができます。このほか、園のご要望に合わせて、オリジナルプログラムもご用意します。お気軽にご相談ください！



所在地：淡路市夢舞台8-10
電話番号：0799-72-2000
入園料：6歳未満は無料
アクセス：神戸淡路鳴門自動車道「淡路IC」から車で5分



兵庫県の環境学習プログラム

兵庫県では、幼稚園・保育所・認定こども園等の先生方に活用していただける環境学習プログラムをたくさんご用意しております。どうぞご利用ください！



はばタンの環境学習

幼稚園、保育園、認定こども園等を対象に、はばタンといっしょに水や電気などの資源の大切さを学ぶ「はばタンの環境学習」を展開しています。

- 所要時間：1時間程度
- 費用：無料
- 対象年齢：4歳児～

【問い合わせ先】

兵庫県農政環境部環境創造局 環境政策課活動支援班 TEL:078-362-9895



エコツーリズムバス

環境学習施設を訪問する際の、バス借上げ経費の一部(1台上限25,000円)を助成します！様々な施設に出かけて、環境について学んでみませんか？

たとえば… ひょうご環境体験館、兵庫県立人と自然の博物館、神戸市立王子動物園、神戸市立須磨海浜水族館など

〈助成要件〉人数：20名以上の参加

時間：1日あたり2時間以上の環境学習

詳しくはHPをご覧ください！→ <http://eco-hyogo.jp/ecoplaza/index.php/ecobus>

【問い合わせ先】

(公財)ひょうご環境創造協会 環境創造課 ひょうごエコプラザ TEL:078-735-4100



ひょうご出前環境教室

(公財)ひょうご環境創造協会が選定した環境学習プログラムの中からご希望のプログラムの講師を無料で派遣します。

たとえば……「竹で遊び道具を作ろう」、「見て、さわって、感じて！身近な生きものや自然に親しもう！」、「リサイクル紙芝居：ないしょのおつかい」、「しぜんのタカラモノさがし」などなど…楽しい講座がもりだくさん！

所要時間、費用、対象年齢はプログラムごとに異なります。プログラムの詳細など、詳しくは下記HPをご覧ください。

http://www.eco-hyogo.jp/ecoplaza/index.php/demae_kyoshitsu

【問い合わせ先】

(公財)ひょうご環境創造協会 環境創造課 ひょうごエコプラザ TEL:078-735-4100



紙芝居「ほっとちゃんとお野菜大冒険」

兵庫県でつくられた、安心・安全な食べ物である「兵庫県認証食品」のことを子どもたちにわかりやすく伝える紙芝居「ほっとちゃんとお野菜大冒険」を作成しました。紙芝居の出張読み聞かせ、貸し出しも行なっています。どうぞお気軽にご連絡ください！

- 対象年齢：4歳児～
- 所要時間：40分（紙芝居：約10分 ほっとちゃんとのふれあい：約30分）
- 費用：無料

【あらすじ】「わたしたちが毎日おいしく食べているお野菜はどうやって作られているんだろう？」そんな疑問を解決するため、兵庫県認証食品キャラクター「ほっとちゃん」と「あんなちゃん」が冒険にでかけます。



【問い合わせ先】

兵庫県農政環境部農政企画局 消費流通課ブランド戦略班 TEL：078-362-3486

花と緑のふれあい教室

花を贈る・植える・楽しむ文化に子どもの頃から触れられる機会を増やすため、「花育事業」を実施しています。花屋さんや、造園屋さんなどのプロの講師から、フラワーアレンジメントや寄せ植えなどを教わってみませんか？

- 対象年齢：特になし
- 所要時間：応相談
- 費用：初年度無料（次年度以降は花材などの材料費が必要となります。）



【問い合わせ先】

兵庫県農政環境部農林水産局 農産園芸課花き果樹班 TEL：078-362-3449

森林動物研究センター出前授業

野生動物相談員の先生が出前授業をおこないます。「野生動物ってどんな暮らしをしているの？」「シカやイノシシは何を食べるの？」など、野生動物について、お話をしてもらえます。

また、動物の剥製や毛皮など、ふだんあまり目にすることのない野生動物を間近で観察することができます！

- 対象年齢：4歳児～
- 所要時間：1時間程度
- 費用：無料（研究員を講師として招く場合は、別途講師謝金が発生します）



【問い合わせ先】

兵庫県森林動物研究センター（丹波市青垣町沢野940） TEL：0795-80-5500



県民まちなみ緑化事業

兵庫県では、植樹や芝生化などの緑化活動に対して補助を行っています。一般緑化や屋上緑化と同時に行うビオトープの整備も補助の対象になります。園庭の芝生化や植樹、屋上・壁面緑化など、園内を緑化しませんか？

- 校園庭の芝生化(最低面積：30㎡ 最大補助額：500万円)
- 一般緑化(最低面積：30㎡ 最大補助額：400万円)
- 屋上・壁面緑化(最低面積：100㎡ 最大補助額：250万円)

〔利用者の声〕「芝生が気持ちいい!」と子どもたちは園庭を走り回り、ケガも少なくなり、芝生化による効果を実感しています。



【問い合わせ先】

兵庫県県土整備部まちづくり局 都市政策課緑化政策班 TEL：078-362-3563

県民まちなみ緑化事業



木育キャラバン

兵庫県では、木製玩具で遊んだり、木製品に触れてもらうことを通じて、子どもたちが木の良さやあたたかさを感じ、木や森を大切に思う心を育てる「木育(もくいく)」を進めています。

この「木育」をより多くの人に知ってもらうことを目的に、幼稚園等にスタッフが木製玩具・遊具を持参して「木育」を体験してもらう、「木育キャラバン」を実施しています。

- 所要時間：約2時間
- 費用：無料
- 対象年齢：特になし



【問い合わせ先】

兵庫県農政環境部農林水産局 林務課木材利用班 TEL：078-362-9224



森の子育てひろば 自然体験プログラム集

親子でおこなう自然体験に関する具体的なプログラムが21編、収録されています。活動のねらいや、指導者としての留意事項等、くわしく書いてありますので、ぜひヒントにご活用ください！

ダウンロードはこちらから→ http://kodomonoyakata.jp/nature_program.html

プログラム例

- ・ 森の宝さがし ～自然をじっくり見て 同じものさがしをしよう～
- ・ 森のファッションショー ～葉っぱや木の実でお気に入りの服をつくろう～
- ・ 森のこびと ～小さな世界を想像してみよう～

【問い合わせ先】

兵庫県立こどもの館 (姫路市太市中915-49) TEL：079-266-3169



兵庫県の環境学習発行物

- ・ 新兵庫県環境学習環境教育基本方針 (平成28年度)
(http://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/files/8314/5921/9821/160322_new-kihonhoushin.pdf)
- ・ ひょうごエコっこ育成事業実践事例集 (平成26年度、27年度)
(<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk19/26ekokko.html>)
- ・ ちきゅうとなかよし はじめのいっぽ (平成19年度、20年度、21年度)
(<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk19/youzikitool.html>)

監 修 鈴木 正敏／兵庫教育大学 学校教育研究科 准教授

執筆者 金下 玲子／フリーランス (P48～P55)
川島 憲志／フリーランス (P6～P9)
鈴木 正敏／兵庫教育大学 学校教育研究科 准教授 (P14～P15)
兵庫県環境政策課

デザイン 高橋 明子／有限会社リーストワーク

協力園・施設

神戸市立青山台こぼと幼稚園／神戸市立あづま幼稚園／神戸市立有野幼稚園／神戸市立いかわ幼稚園／神戸市立玉津第二幼稚園／学校法人あけぼの学院認定こども園武庫愛の園幼稚園／学校法人七松学園認定こども園七松幼稚園／芦屋市立伊勢幼稚園／三田市立高平幼稚園／加古川市しかた子ども園／社会福祉法人かすぎ野認定こども園西脇こども園／加西市立賀茂幼児園／姫路市立高浜幼稚園／姫路市立安室東幼稚園／赤穂市立赤穂西幼稚園／豊岡市立出石幼稚園／養父市立伊佐こども園／朝来市立竹田こども園／社会福祉法人青垣福祉会認定こども園あおがき／社会福祉法人千草福祉会千草保育所
神戸市水の科学博物館／尼崎の森中央緑地／キッピー山のラボ (三田市有馬富士自然学習センター)／いなみ野水辺の里公園／兵庫県立やしろの森公園／エコパークあばし／ひょうご環境体験館／但馬高原植物園／青垣いきものふれあいの里／淡路島国営明石海峡公園